

青少年赤十字が、青少年赤十字指導者協議会ははじめ、賛助奉仕団、各学校の教師の皆様には、赤十字精神への深いご理解の下、日頃から青少年赤十字活動につきまして多大なるご支援とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

青少年赤十字において、本県は、学校加盟率でも、活動のレベルの高さにおいても全国屈指の模範県であります。私は、昨年七月に本職に就任して以来まだ日は浅いのですが、青少年赤十字関係の会合には数多く出席させていただき、参加者の熱意にはいつも感服いたします。他県ではあんなに青少年赤十字が元気を装いながらも将来の

青少年赤十字指導者協議会ははじめ、賛助奉仕団、各学校の教師の皆様には、赤十字精神への深いご理解の下、日頃から青少年赤十字活動につきまして多大なるご支援とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

青少年赤十字指導者協議会は、いつも「学校当局の理解を得発なのか」という質問を受けることが多いのですが、私は、いつも「学校当局の理解もあるが、やはり指導者協議会や賛助奉仕団の熱心な取り組みにより、伝統が代々受け継がれていることが大きいのではないか」と答えておりま

る。改めて、これまでの関係者のご尽力に敬意と感謝を申し上げます。

現在、福島県は一昨年の大震災、原発事故による試練の只中になります。特に子供たちに大きなしわ寄せがあるものと心が痛みます。大人には原発立地の責任がありますが、子供には全く責任がありません。にもかかわらず、今は元気を装いながらも将来の

健康被害や差別を密かに怖れている子供たちは少なくないと思いまし、否応無く廃炉までの長い時間、事故炉とつき合い、復興の重荷も背負わされることになります。

余りにも重い現実に大人はなかなか立ち上がれない中で、今年度実施された「青少年赤十字 詩・一〇〇文字提案」の応募作品には、優秀作品のみならず応募作品の全てといつてよいくらい、子供たちの強い気持ち、この大災害から人間にとつて大事なものを感じ取り、未来に向かって力強く歩み出そうという前向きな気持ちがあふれています。「健康」や「安全」の大切さや「奉仕」の尊さ、「気づき」、「考え」、「実行する」という基本を、この大災害の中で身をもって、あるいは報道で、あるいは先生や友達から学び取った子供たちが少なくないという事実は私たちにとって何よりの希望であります。

今、理不尽な困難に直面している福島県の子供たちには、積極的なJRC活動を通じて、こうした基本目標をしっかりと捕らえ、「試練は「海外救援金」で賄われておりまして、感謝の極みであります。これは今までに我が国

教育環境の整備」「子供の屋内遊び場の提供」、「各種復興イベント」など従来の赤十字活動の枠を越えて、様々な支援活動に取り組んでおります。これらの資金は総て、一〇〇を超える国や地域からの「海外救援金」で賄われておりまして、感謝の極みであります。これは今までに我が国

が海外支援や援助に積極的に関わってきたことへの返礼の意味も込められており、いかに日頃からの「人道支援」や「国際親善」が大切かを知らしめてくれます。

今、理不尽な困難に直面している福島県の子供たちには、積極的なJRC活動を通して、こうした基本目標をしっかりと捕らえ、「試練は「海外救援金」で賄われておりまして、感謝の極みであります。これは今までに我が国



日本赤十字社福島県支部
事務局長 穴沢正行

青少年赤十字で 試練を乗り越える力を養おう



編集発行
青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998



人間を救うのは、人間だ。

加えて、この機会に強調させていただきたいことは「国

本来ならば昨年度行われる第三十六回青少年赤十字福島県指導者研修会並びに学校公開は、十月五日(金)に、矢祭町立矢祭中学校を会場に開催されました。

予定でしたが、震災の影響で、公開が一年延びました。こんな時だからこそ赤十字の精神が、福島の復興の大きな力になるという状況でした。その間に、前会長で前実行委



東白川地区青少年赤十字指導者協議会長
矢祭町立石井小学校校長
高崎 康行

震災を乗り越えて

第三十六回 青少年赤十字 福島県指導者研修会並びに 学校公開を終えて

第三十六回 青少年赤十字 福島県指導者研修会並びに 学校公開を終えて

員長の校長先生、会場校の校長先生が転任され、力不足の私が会長を引き継ぐ形になり、責任の重さを痛感しました。

学校公開当日は、受付と並行して小学生の一輪車乗り、中学生の朝の活動と日常の子ども達の公開に始まり、小学校・中学校の全学級の授業公開、小・中学生の昔遊びでの交流活動、中学生の太鼓の発表と盛り沢山で、児童生徒の様子を存分に参観していました。特に、「気づき、考え、実行する主体的で思いやりのある子どもの育成」を研究主題として公開された授業では、命の大切さや、ボランティアへの意識の高まりを感じることができました。また、交流活動では、中学生が小学生をいたわり、違和感なく交流している姿があり、合同での登録式をはじめ、これまでの青少年赤十字活動を通して、交流を続けてきた成果を見ることができました。更に、東白川地区の各小・中学校の模造紙による発表では、震災の影響で、指定を受けてから三年間となつた取り組み等を見ていただきました。

と「」の演題で発表した様子をDVDで紹介し、全体指導では、県の義務教育課指導王事、菊池淳様にご指導をいただきました。記念講演では、文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官の杉田洋先生が、「子どもが変わる」学校での実践活動を紹介してくださいました。参加者からのアンケートにも感動の言葉を多数いただきました。

最後になりましたが、大きな成果をあげることができましたのは、二百八十名を超える参加者の皆様、ご指導いただきました、日本赤十字福島県支部、県南地区青少年赤十字賛助奉仕団、豚汁を提供くださった、矢祭町の日本赤十字奉仕団、多くの校長先生が、実行委員として活躍してくださいました、東白川郡校長協議会の皆様はじめ、ご協力いたしました全ての皆様のお陰です。重ねて御礼と感謝を申し上げます。

研究を通して

矢祭町立下関河内小学校長
金子 洋

A black and white portrait of a middle-aged man with short, dark hair. He is wearing a dark suit jacket over a white shirt and a dark tie. The background is plain and light-colored.

青少年赤十字の精神

感でいっぱいであつたことが何よりの喜びといえます。この研究実践を通して、受

三國志 十二、關刀四十八計又奇

進化し続ける子どもを

ことができましたことに深く感謝申し上げます。さらに公開を終えた子どもたちが、「緊張した」と言いながらも満足感、充実感で笑顔にあふれていました。

集い、意見交換の機会を設け、意見を尊重するよう、これからも全校生徒と全職員が一丸となつて取り組んでいきたいと思います。

その集大成となる研究公開では、本校の「健康教育」の特色でもある「輪車の演技披露」「国際理解・親善」「健康・安全」「奉仕」の三領域を踏まえた公開授業、そして小・中学生の「昔遊び」を通して、の交流活動が行われました。分科会では多くの参加者の皆様から、貴重なご意見やご助言をいただき、盛会に終える

東日本大震災で一年延長の研究となりましたが、福島県の復興に向けて、思いやりの心や人と人との絆を大切にする教育が求められている現在、この青少年赤十字の活動は時宜を得た活動であると自信をもっていいます。

成り青少年赤十字の精神を生かした日常活動をとおして「」を主題に、教育活動全体を通して研究と実践に取り組んできました。その取り組みのきづかけの一つになつたものが、子どもたちの普段から行うボランティア活動でした。

以前の本校のボランティア活動といえば、全校生で行うクリーン活動といった、いわ

「やりのある子どもの育成」を研究テーマに三年間取り組んできました。子どもたちが、日々の生活の中で、気付くこと、考えること、そして自己決定により行動を起こすことを繰り返しながら、より良い成長を図つていくために、教育活動を見直したり具体的な指導法を工夫したりして、その具体化に努めきました。

「実行する」姿を実現するための手立てとして、問題解決的な学習過程の工夫が行われてきたことは、教職員の指導力向上に大きな成果となつていてます。また、日常生活で、「こんなふうにしたい」「こうやつてみたらどうか」と考えて取り組む姿や、様々な場面で自ら的にボランティア活動をする姿、上級生が下級生を優しく面倒を見る姿など、子どもたちの着実な心の成長を実感

「先生、今日はお菓子の袋が落ちていました。」
今ではすっかり当たり前の光景になりましたが、本校では、児童が登校中に見つけたごみを拾って学校に届けてくれています。

矢祭町立下関河内小学校教諭
森合 一

ゆる行事的なものはあります。たが、日常的な活動といふと、五・六年生で行う各教室のごみ集めや校舎周辺の掃除といったものでした。しかし、それは「決められたものだからやる。」といった義務感が強く、自主的な行動ではありませんでした。こういった子どもたちの考え方を変えていきたいと言う気持ちから、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」といった姿勢を意識して研究に取り組んだところ、五・六年生は代が変わることで、先輩たちが実践してきたボランティア活動を引き継ぎながらも、さらに良いボランティア活動にしていこうと自分達から話し合いを重ねる姿が見られるようになつてきました。

れば、常に進化するものだと考えます。そのためにも私たちは今後も、青少年赤十字を生かしながら「気づき、考え、実行する「主体的で思いやりのある子どもの育成」の実現により強い気持ちを持って取り組んでいきたいと思います。

自分達にできる」と

矢祭町立下関河内小学校
六年 近藤 葵

私はJRC活動を通してボランティアは「やらなきやいけないもの。」から「自分からやりたいもの。」に変わりました。

私は一学期、学校のJRC活動を計画し、進めて行く運営委員会の委員長になりました。初めは、「三十一人しかいない私たちに何ができるんだろう。」と思っていました。でも、みんなで『自分たちにできること』をテーマに話し合い、協力し合ってやつてくうちに不安はなくなりました。一人ひとりが気づいた『よいこと』を進んで行うことが『自分たちにできるこ



矢祭町立矢祭中学校 校長

一気うき・考え方・ 実行する

「自分たちにできること」と
で町や学校のみんなが喜んで
くれたり、気持ちがよくなつ
てくるのを見て「やつてよ
かつた」と思いました。だか
らこれからも進んで「自分た
ちにできること」を続けて行
こうと思います。

自分達にできること

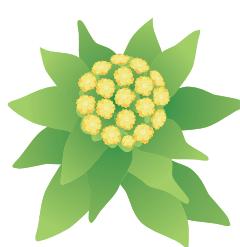
六年 近藤 萃

『自分たちにできること』で町や学校のみんなが喜んでくれたり、気持ちがよくなつてくるのを見て「やつてよかったです」と思いました。だからこれからも進んで「自分たちにできること」を続けて行こうと思います。

さて、本校では、共通研究主題『気づき、考え、実行する 主体的で思いやりのある子どもの育成』青少年赤十字の精神を生かした日常の活動を通して』のもと、様々な取り組みを継続してきました。

と『だつたからです。』
私が登校するときに、道ばたにゴミが落ちていると登校班のみんなでゴミ拾いをしながら登校しています。初めは気がついた人だけやっていましたが、いつの間にかみんなに広まり、進んで行っています。校内では、五・六年生が協力して、なかなか掃除ができない水道をきれいにしたり、各教室のゴミを集めたり等の影響でやむを得ず延期されました。が、お陰様をもちました。班のみんなでゴミ拾いをしながら登校しています。初めは気がついた人だけやっていましたが、いつの間にかみんなに広まり、進んで行っています。校内では、五・六年生が協力して、なかなか掃除ができない水道をきれいにしたり、各教室のゴミを集めたり等の影響でやむを得ず延期されました。が、お陰様をもちました。参観者をお迎えし、盛大に開催することができました。三年間に渡りご指導ご支援を賜りました日本赤十字社福島県支部、青少年赤十字福島県指導者協議会をはじめ、多くの関係者の皆様に心から御礼と回研究公開が、東日本大震災等の影響でやむを得ず延期されました。が、お陰様をもちました。班のみんなでゴミ拾いをしながら登校しています。初めは気がついた人だけやっていましたが、いつの間にかみんなに広まり、進んで行っています。校内では、五・六年生が協力して、なかなか掃除ができない水道をきれいにしたり、各教室のゴミを集めたり等の影響でやむを得ず延期されました。が、お陰様をもちました。参観者をお迎えし、盛大に開催することができました。三年間に渡りご指導ご支援を賜りました日本赤十字社福島県支部、青少年赤十字福島県指導者協議会をはじめ、多くの関係者の皆様に心から御礼と

さて、さくらの「健康・安全」の領域では、朝の運動に積極的に取り組むとともに、思春期保健講座などを通して、命の大切さ・生命尊重についての学びを推進しています。これらは、公開に向けて新たに取り組んだものではなく、日頃の教育活動と青少年赤十字の精神とを関連させて、結びつけたものです。学校経



平成二十
三年十月に
本校を会場
に開催予定
の第三十六
また、「奉仕」の領域では
町の社会福祉協議会などと連
携し、サマーショートボラン
ティアスクールをはじめ、地
域ボランティア活動を全校あ

域では、朝の運動に積極的に取り組むとともに、思春期保健講座などを通して、命の大切さ・生命尊重についての学びを推進しています。

これらは、公開に向けて新たに取り組んだものではなく、日頃の教育活動と青少年赤十字の精神とを関連させ、結びつけたものです。学校経営・運営ビジョンに基づいて教育活動の充実を図っていることに他なりません。

今後も、全ての教育活動において、生徒一人一人の「がんばり」や「良さ」を認め、称賛し、「自己肯定感」や「自己有用感」をさらに高めていくことが「気づき、考え、実行する、主体的で思いやりのある子ども」の育成に直結するものと考え、学校全体でべクトルの向きを揃え、日常の教育活動の充実に向けて取り組んでいきたいと考えています。

JRC活動から得たもの

矢祭町立矢祭中学校 教諭

久保木 学

本校は中通り最南端に位置し、周囲を緑豊かな山々に囲まれた学校です。学校の雰囲気は明るく、穏和で素直な生徒がほとんどです。その一方で、様々な活動に際して受け身がちになりやすい課題もありました。決められたこと・指示されたことはしつかり取り組むことがであります。しかし、それ以外の時と場に応じて、よりよい方法に気づいたり、工夫したりといつた自ら進んで活動する力が弱かつたのです。

そこで、「気づき、考え、

実行する 主体的で思いやり

のある子どもの育成」を研究主題とし、青少年赤十字活動を柱にし、平成二十二年度から研究を進めてきました。生徒の主体的な姿の実現に指導の視点をおり、全教育活動の中で指導を進めてきました。

現在では、三年生を中心して、卒業前に校舎内外のゴミ拾いや掃き掃除に自分から取り組んでいます。また、多くの生徒が始業前にランニングなど

の「朝の運動」に取り組んでいます。

その結果、奉仕の心が芽生えたり、体力が向上したりするだけでなく「自分で決めたことを最後までやり通す強い心」も育っています。

また、下関河内小と連携し、JRC登録式、クリーンアップ作戦、ミニ運動会、昔あそびを実施しました。これらは本校のJRC委員会が中心となり企画立案し、小学校と連絡調整や会の運営を担いました。教師は生徒の相談役、サポート役として見守る姿勢を貫きました。失敗や遠回りが多く、時間はかかりましたが、より生徒はいきいきと活動に取り組み、先日の公開でも意欲的な姿を見せてくれました。

我々教師も、生徒と活動を共有しながら、一人一人の「がんばり」や「良さ」を認め、賞賛し、「自己肯定感」や「自己有用感」を高めるとの重要性を再認識させられました。

研究指定校での活動は本年度までですが、この研究で根付いた成果が、日々の生活なかで継続し、今後より深化します。

青少年赤十字作品募集 「詩」・「100文字提案」



青少年赤十字の活性化と意識の高揚を図るため、県支部事業として平成十八年度から引き続いだ児童生徒の作品募集を行っています。特に今年度は、海外の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施し、最優秀賞に選ばれた作品の中から「日本赤十字社福島県支社長賞」が設定され選考されました。今年は七十六校から、詩「いのちの詩」・「愛の詩」に千三百点、「100文字提案」あたたかい言葉のプレゼント」に九百七十六点、「わたしのボランティア」に七百三十五点、「100さんのすばらしいところ」に千四百九十二点、「東日本大震災でわたしが『気づき』『考え』『実行』したこと、しようとしたこと」に百九十五点、その他に四十一点、総計では四千七百三十九点の応募をいただきました。



平成二十四年度青少年赤十字 国際交流事業Mt.Fuji ~2012~

日本赤十字社は青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の具体的な活動の機会として海外と日本との青少年赤十字メンバーが直接交流できる国際交流事業を行っています。昨年は震災の関係もあり行われませんでした。今年度は十一月二十三日から二十六日までの四日間静岡県御殿場YMC A 東山荘にアジア二十一カ国・地域から海外メンバー、職員の方が四十六名、日本全国各地三十六都道府県から高校生七十五名、指導スタッフ十五名、語学奉仕ボランティア三十三名、ユースボランティア十八名、看護師一名、講師二名、日本赤十字社職員八名により開催されました。福島県の交流事業の参加者については從来の二名の所、被災県はもう二名参加ができる四名、また指導者として二名が加わり本県から六名の参加となりました。そんな中で福島県メンバー四名は被災県、原発問題がまだ収束していない福島県の現

状を国内・海外のメンバーに
わかつてもらうための活動を行
うことにして、事前準備を行
いました。県大会でプレ発
表を行い、問題点や修正点を
見つけ改善しました。そんな
四人を応援しようと他のメン
バーはグリーティングカード
を交流事業参加者全員に届け
ようと日本語と英語で作り、
四名にたくしました。

いてくれたことに感銘を受けた。またファイードワークやグループディスカッションなどの活動を通して、グループ内の海外メンバーと交流し、各国の現状を知ることができた。今回の国際交流でコミュニケーション力がつき、ひとり大きくなつたような気がする。得たものを糧にJRC活動に励み、福島を元気づけたい。

ご指導、ご支援くださった学校の先生や赤十字のスタッフの方々に心から感謝したい。

『Mt. Fuji』で学んだこと

福島県立白河実業高等学校
一年 鯉沼 由奈

私はM. Fujiに福島県代表として参加し、アジア

私はM. Fujiに福島県代表として参加し、アジアの国々のJRCメンバーと『人間の尊厳』について一緒に考えました。私の班の編成は、インド・香港・カンボジア・日本です。四日間を通してグルーブワーク、フィールドワーク、グループディスカッションで海外メンバーの状況を知り、その解決策を考え発表しました。そんな中で私は思い浮かばなかつた

にアジア二十一カ国・地域から海外メンバー、職員の方が四十六名、日本全国各地三十六都道府県から高校生七十五名、指導スタッフ十五名、語学奉仕ボランティア三十三名、ユースボランティア十八名、看護師一名、講師一名、日本赤十字社職員八名により開催されました。福島県の交流事業の参加者については從来の二名の所、被災県はもう二名参加ができる四名、また指導者として二名が加わり本県から六名の参加となりました。そんな中で福島県メンバー四名は被災県、原発問題がまだ収束していない福島県の現

M.T. Fujii 2012
の自分の最大の任務は「福島の現状を全国に、世界に伝えること」だった。

二日目の活動紹介の際、福島のブースに日の丸の旗が立ててあり、日本代表も兼ねることを知った。緊張したが自分を含めた県のメンバー四人で、福島のブースの中で様々なものを展示した。震災時の原子力発電所の写真や線量マップ、学校の敷地内にあるリアルタイム線量計などの写真を手に懸命に説明を行つた。たくさんの日本や海外メンバーベーが訪れ、熱心に話を聞

私は、国際交流事業 Mt. Fuji 2012 に参加して視野が広がりました。今年度のテーマは「人間の尊厳」でした。講演では子ども

国際交流事業に 参加して

福島成蹊高等学校

二年 服部 麗

私はこれから相手や自分の尊厳を守つて行く為に学校でのボランティアや献血にも積極的に参加していきます。最後に、Mt. Fuji に参加する私を支えて下さった先生方、本当にありがとうございました。大変貴重な経験をすることができました。

私は同世代の各JRCメンバーと意見を共有出来たことに感謝しています。ここで経験したことを福島のメンバーに伝えて行きます。

アイディアや意見が多くあり、驚きの連続でした。最終的に『人間の尊厳』を守る為に私達は、「相手が大変な状況に置かれている場合に、私達が奉仕することによって、相手の尊厳が守られ、私達の尊厳も守られる」という答えに辿り着きました。

また日本代表として福島県が活動紹介を行い、原発など福島県の現状を伝えました。熱心に話を聞いてくれ、心配などをしていただきとても心が温まりました。

私は同世代の各JRCメンバーと意見を共有出来たことに感謝しています。ここで経験したことを福島のメンバーに伝えて行きます。

も兵士、女性への暴行、貧困など目を背けたくなるような写真がうつし出されました。これが現実なのだと受け止めました。グループディスカッションでは海外メンバーと現代の問題である HIV (エイズ)について話し合いました。町中にポスターが貼つた。あるカンボジア、文化の背景を重視して対策を考える必要のあるパキスタン、キャンペーンや授業で学ぶ日本・ロシアなど各国間では危機感に差があると強く感じました。最後に私たちが求められる行動を一人ひとりが考え、まとめました。

各国活動報告では、日本を代表して昨年の震災の復興のために実践することを発表しました。ベースには震災直後の津波と原発の写真集や新聞記事などを置き、ありのままの福島を報告することができました。また、福島へのメッセージを書いていただき、沢山の応援に元気をもらいました。

私は、国際交流事業 Mt. Fuji 2012 に参加して視野が広がりました。今年度のテーマは「人間の尊厳」でした。講演では子ども

平成24年度国際交流事業 MT.Fuji 2012 プログラム

	11月23日(金)	11月24日(土)	11月25日(日)	11月26日(月)
7:00		起 床	起 床	起 床
8:30		朝 食	朝 食	朝 食
9:30		フィールドワーク (含:昼食)		閉会式 振り返り
10:30			グループディスカッション3 (含昼食)	10:30 海外メンバー出発 10:40 日本メンバー出発
12:30		結果発表 記念写真撮影		
13:15 13:30				
14:00	受 付			
15:30		グループワーク		
16:00 オリエンテーション			グループディスカッション の発表	
16:30			ま と め	
17:00	アイス・ブレーキング	グループディスカッション2		
18:00			夕 食	
18:30	夕 食	夕 食		
19:30 20:00	グループディスカッション1	青少年赤十字活動紹介		文化交流
20:45	健康チェック・連絡タイム	健康チェック・連絡タイム		
21:00			健康チェック・連絡タイム	
21:30	入浴・就寝準備	入浴・就寝準備		
22:00			入浴・就寝準備	
22:30	消 灯	消 灯	消 灯	

国際交流事業に 参加して

學園
福島高等学校
二年
安斎 秀喜

私は、M_t・F U J I 2012に参加して多くのことを学ぶことができました。

最初は海外メンバーとの活動がうまくいくのか不安がありましたが、せっかくの機会なので勇気を持って積極的に海外メンバーに話しかけるようにしました。英語を使ってコミュニケーションが取れたときはとてもうれしかったですし、自信にもなりました。

グループワークは人間の尊厳、環境問題について話し合いました。話し合いは、様々な意見が出されとても内容の濃い白熱したものになりました。私にはテーマが難しくてどうしてよいか分からなくなくなつたときもあったのですが、海外メンバーは、スラスラと自分の意見を発表し、日ごろの意識の高さの違いを見せられたような気がして少し悔しかつたです。フィールドワークや文化交流もテーマソングを歌うのもとても楽しめました。また、再会する機会があれば海外メンバーと



の四日間 Mt. Fuji

福島県立福島東高校
教諭

松本
仁子

アジア太平洋地域のJRC／RCYメンバーが集い、四日間生活をともにし、ディスカッションを重ねるこのプログラムは、刺激的で充実し、人々の理想と優しさを知る機会となつた。

A young girl is holding a large, hand-decorated paper sailboat. The sailboat is white with a blue and yellow striped sail. The body of the boat is decorated with various drawings and text. The girl is smiling and looking at the camera.

～YOUTH ON THE
MOVE!～
JRC/RCY
InternationalMeeting
参戻→Mt.Fuji ～2012～

福島県立白河実業高等学校教諭
シエル・パ・愛子
静岡県の御殿場YMCア東

た環境や価値観など違いを持ちながら、しかし「人間の尊厳を守る為に『私達』青少年は何ができるのか」を話し合い、意見がぶつかり合い、それでも互いを分かろうとする姿は感動的です。すでに班のものが地球の縮図で、その中で懸命に生きる姿がありました。二日目の青少年赤十字活動紹介では準備した『ふ

デイスカッショングループでのポスター作り、フイールドワーク、文化交流など、自らコミュニケーションをとり、お互いを思いやりながらの活動をした。そしてその中心にあつたのは「人間の尊厳とは?」という問いでした。生まれ育つ

うな素晴らしい集会を企画して頂き参加出来たことは宝だと思っております。企画運営して下された方々、参加を支えて下された先生方、一緒に活動した生徒の皆さんに感謝申し上げます。後は…Doing More. Doing Better!

第四十九号は昨年度行われ
なかつた学校公開、国際交流
事業と「詩」「一〇〇文字提案
と多くの内容となりました。
お忙しい中、原稿をお寄せ
いただきました方々、ご協力
いただいた皆様に感謝申し上
げます。

第四十九号は昨年度行われ
なかつた学校公開、国際交流
事業と「詩」「二〇〇文字提案」
と多くの内容となりました。
お忙しい中、原稿をお寄せ
いただきました方々、ご協力
いただいた皆様に感謝申し
げます。

あ
と
が
き

るやとを守る・福島県JRCのこれから活動を日本で紹介しました。懸命に各国・各県の訪問者に「福島の今を伝え続ける」「被災者支援を継続する」「自分達の力で福島を復興させる」などを伝えました。そして県大会で県内のメンバーで作成した「世界中からの支援をありがとう」という言葉を福島県がどうございました!福島県は頑張っています」というグリーティングカードを一人一人に手渡してきました。まだまだ書ききれませんがこのような素晴らしい集会を企画して頂き参加出来たことは宝だと思っています。企画運営して下さった方々、参加を支えて下さった先生方、一緒に活動した生徒の皆さんに感謝申し上げます。後は… Doing More. Doing Better!